



# 令和8年産 麦作情報 (Vol.3)

令和8年3月25日  
宮城県石巻農業改良普及センター  
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>

今後のポイント:排水対策、追肥、雑草防除

## 1 気象経過

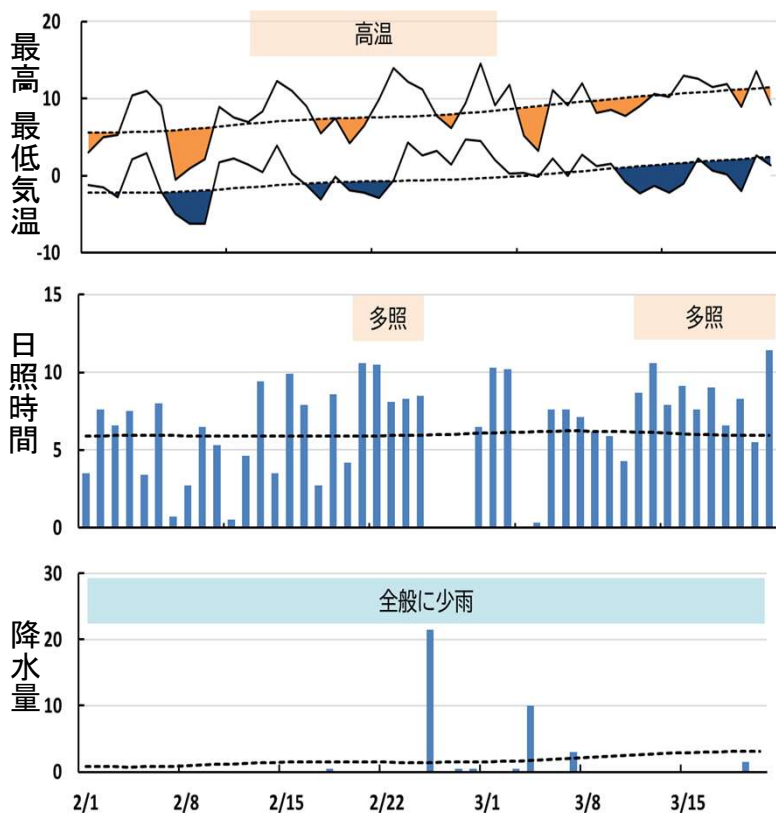


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上:最高・最低気温、中:日照時間、下:降水量、点線は平年値

## ◆ 気象経過

- ・平均気温…2月は平年より高く(平年差+1.7°C)、3月上旬は平年並みに(平年差-0.2°C)、中旬は平年より低く(平年差-1.1°C)経過しました。
- ・日照時間…2月は平年より少なく(平年比 89%)、3月上旬は平年より少なく(平年比 89%)、中旬は平年より多く(平年比 152%)経過しました。
- ・降水量…2月は下旬に22 mm の降雨がありましたが、平年より少なく(平年比 75%)、3月上中旬は平年より少なく(平年比 63%)経過しました。

## ◆ 1か月予報 (3/21-4/17)

【気 温】 10 10 80

【降 水 量】 20 40 40

【日照時間】 40 40 20

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

【1週目】 10 10 80

【2週目】 10 10 80

【3~4週目】 10 20 70

■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

図2 季節予報(3/19仙台区気象台発表)

※上図:1か月の気温、降水量、日照時間予報、下図:週ごとの気温予報

## 2 生育調査ほの生育状況(3月18日現在)

- ◆ 草丈は、シュンライ・ミノリムギは平年より短く、シラネコムギは平年より長い傾向です。
- ◆ 茎数は、大曲のホワイトファイバーを除いて、平年より少ない傾向です。
- ◆ 幼穂長は、シュンライ・ミノリムギは平年より短く、シラネコムギは平年より長い傾向です。

表1 生育調査ほ調査結果(3月18日調査)

品種	調査ほ(旧市町)	播種日(月日)			草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			幼穂長(mm)			葉色(GM)
		本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年
シュンライ	給人町(桃生)	11/18	+25	+37	9.2	72%	54%	278	34%	30%	2.1	-0.5	-1.9	49.8
ミノリムギ	高須賀(桃生)	10/25	+5	+7	10.7	65%	68%	553	51%	62%	2.2	-0.8	-0.2	49.4
ホワイトファイバー	真野(石巻)	10/30	-	-	11.0	-	-	395	-	-	2.3	-	-	48.0
	大曲(矢本)	11/11	-	-	11.7	-	-	1050	-	-	2.1	-	-	49.4
シラネコムギ	太田(桃生)	10/31	-1	+4	16.6	111%	109%	672	85%	68%	1.1	+0.4	+0.3	43.1

※ 平年差・比は過去5か年の平均値との比較。

※ 播種日の+は遅い、-は早いことを示す。

### 3 今後の管理

#### (1)「排水対策」～節間伸長期以降は湿害の影響を受けやすくなります～

◆ 節間伸長期から出穂期の湿害は、幼穂生長阻害による穂数穂数の減少や穂の小型化、弱小分けつ  
の枯死、子実の充実不足による収量・品質の低下、につながるため、排水対策を徹底しましょう。

#### (2)「追肥」～大麦は減数分裂期追肥、小麦は幼穂形成期追肥の準備をしましょう～

##### ① 幼穂形成期追肥 … 穂数の増加

◆ 大麦では、幼穂形成期をすでに迎えており、小麦も4月上旬頃に幼穂形成期に達すると予想されます。  
幼穂形成期追肥では、大麦、小麦とも窒素成分で2～2.5kg/10a程度施用しましょう。

##### ② 減数分裂期追肥 … 1穂粒数の増加

◆ 追肥時期の幼穂長の目安は30mmです。この時期の幼穂は1日で5mm程度伸びる場合もあるため、  
幼穂長が30mmとなる頃までには追肥作業が終わるようにしましょう。

◆ 大麦は、追肥が遅れると硬質麦の発生が多くなるので、幼穂長や止葉耳間長を観察し、適期追肥  
に努めましょう。硬質麦はタンパク質含有率の高い子実で発生が多く、製品白度や歩留まり低下する  
要因となっています。



◆ もち性大麦ホワイトファイバーは、水溶性食物繊維β-グルカン含有率の確保のため、  
減数分裂期追肥は必ず行いましょう。

◆ 減数分裂期追肥は窒素成分で2～2.5kg/10aを目安とし、適期に施用しましょう。

表2 追肥の施用時期と施用量の目安

追肥の種類		幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
期待される効果		有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大 麦	時期	2月下旬～3月中旬	4月下旬 (ホワイトファイバーは必須)	硬質麦防止のため 実施しない
	シユンライ ホワイトファイバー ミノリムギ	3月上旬～4月上旬	4月下旬～5月上旬	
10a当たり 現物施用量		窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) (尿素4.5～5.5kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) (尿素4.5～5.5kg)	
小 麦	時期	3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
	10a当たり 現物施用量	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) (尿素4.5～5.5kg)	窒素成分4～5kg (硫安20～25kg) (尿素9～11kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) (尿素4.5～5.5kg) ※夏黄金は2倍量

※ 時期は平年の場合の大よその目安です。実際には現地ほ場の幼穂長を見てから追肥時期を判断しましょう。

#### 減数分裂期追肥時期の予測法① ～実際に幼穂長を測定して予測する～

◆ ほ場の中で、中間的な長さの主茎(1株内の最長茎)を3本以上採取し、  
茎の膨らんでいる部分を手で剥くか、カッターで縦方向に切り裂いて、幼  
穂の長さを測ります。

芒は幼穂長に  
含めない

◆ 測定した幼穂長の平均が10mmであれば減数分裂期(※)までの日数  
は10～20日後、20mmであれば4～6日後となります(表3参照)。

※ 減数分裂期: 1・2号分けつの幼穂長平均が30mm。主茎の幼穂長のみだと大麦の場合33～35mm程度。



表3 幼穂長が10mmに達した日から予測した減数分裂期予測

シュンライ		ホワイトファイバー		ミノリムギ	
幼穂長	減数分裂期	幼穂長	減数分裂期	幼穂長	減数分裂期
10mm		10mm		10mm	
3月30日	4月11日	3月30日	4月11日	3月30日	4月11日
4月5日	4月16日	4月5日	4月16日	4月5日	4月17日
4月10日	4月20日	4月10日	4月20日	4月10日	4月21日
4月15日	4月25日	4月15日	4月25日	4月15日	4月25日

シラネコムギ		夏黄金	
幼穂長	減数分裂期	幼穂長	減数分裂期
10mm		10mm	
4月10日	4月20日	4月10日	4月21日
4月15日	4月25日	4月15日	4月25日
4月20日	4月29日	4月20日	4月29日
4月25日	5月4日	4月25日	5月4日

※普及に移す技術第91号をもとに、石巻アメダスの日平均気温(平年値)を使用して、算出した目安です。今後の気象条件次第で、実際の減数分裂期は前後します。

表4 生育調査ほの幼穂形成期、減数分裂期の平年値

品種(地区)	幼穂形成期			減数分裂期	
	本年	前年	平年	前年	平年
シュンライ(給人町)	3月17日	3月15日	2月20日	4月16日	4月12日
ミノリムギ(高須賀)	3月14日	3月15日	3月16日	4月18日	4月18日
ホワイトファイバー(真野)	3月13日	-	-	-	-
ホワイトファイバー(大曲)	3月17日	-	-	-	-
シラネコムギ(太田)	-	4月7日	4月3日	4月26日	4月24日

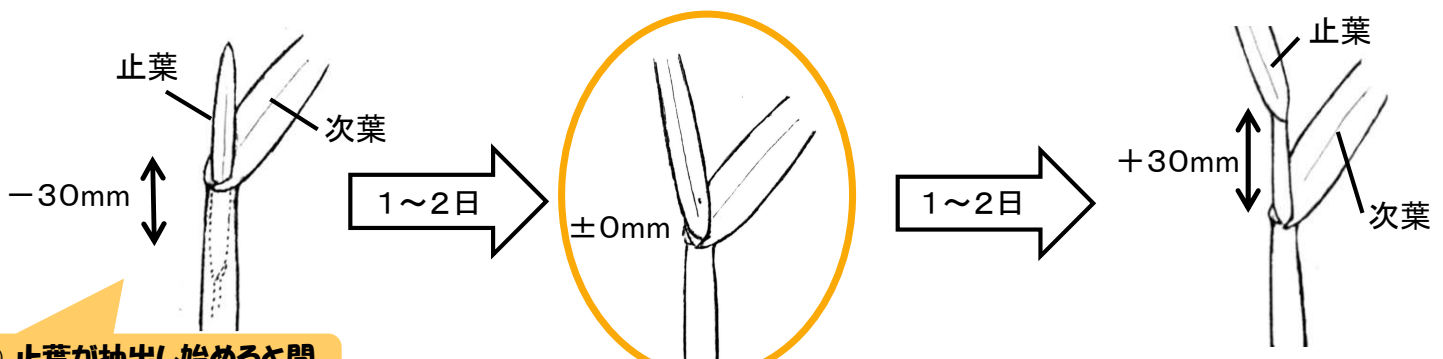
※ 普及センター調査ほの5か年平均。  
 ※ 幼穂形成期は幼穂長2mm、減数分裂期は幼穂長30mmを迎えた日。  
 ※ ホワイトファイバーは圃場変更により、本年からのデータのため前年値・平年値なし。

### 減数分裂期追肥時期の予測法②

～止葉葉耳間長が±0mmを超えた茎の割合から、追肥の開始時期を判断する～

### 減数分裂期の目安

大麦(シュンライ、ミノリムギ、ホワイトファイバー) → **2割程度の茎が止葉葉耳間長±0mm以上のとき**  
 小麦(シラネコムギ、夏黄金) → **4～5割の茎が止葉葉耳間長±0mm以上のとき**



○ 止葉が抽出し始めると間もなく追肥時期です!

※普及に移す技術第81号・83号・84号より引用

### (3)「雑草防除」～ 散布適期を逃さないようにしましょう! ～

- ◆ 雑草は、土中の養水分や光合成の競合によって収量・品質を低下させます。
- ◆ 特に、これから気温が高くなるにつれて雑草の生育も進むため、除草剤の散布適期を逃さないようにしましょう。麦類茎葉処理剤は前号(麦作情報Vol.2)を参照してください。